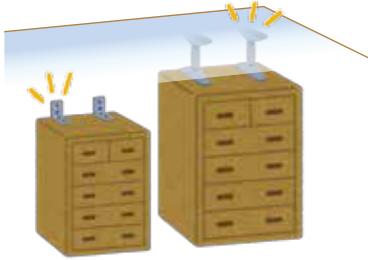


Point 1 危険を知ることが第一



- お住まいの地域の危険箇所を知つておく
- 市町の防災マップなどを確認 (土砂災害や津波、洪水などが想定される区域を確認)
- 家具の固定、住宅の耐震化をする (地震に対して、安全な場所を確保)

Point 2 身を守る行動をイメージ



- さまざまな状況で災害が起ったときのことを想定しておく
- 自宅にいるとき
- 職場にいるとき
- 住宅地にいるとき
- 車に乗っているとき

Point 3 地域の絆を強く



- 災害時の大いな支えになるのは、隣近所の方や近くの友人
- 地域のネットワークを築いておく (日ごろから行事に参加するなど関わりを強める)
- 町内の高齢者の状況などを把握しておく (避難の手助けを安全な範囲で行う)

家族でしつかり考えよう 「防災のこと」

自然災害は、いつどこで発生するか分かりません。
万一の事態に遭遇した際に生きられるのは、日ごろからの備えです！
(□にチェックmarkをしましょう)

Point 4 持ち出し袋に必要なものを



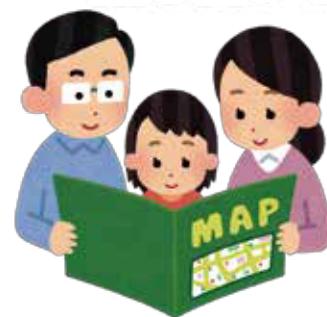
- 非常時の準備・点検をしておく (裏面で確認) (赤ちゃんのおむつなど家庭ごとに必要なものもそろえる)

Point 5 避難はすぐに行動



- 市や町の避難勧告などがあった場合は、すぐに避難する
- 河川の異常な濁りなど前兆現象がある場合も、避難する
※危険を感じてから逃げても間に合わない場合がある

Point 6 家族で話し合いを



- 年に2~3回は家族で防災について考える
- 災害発生時の避難場所や連絡方法を確認(裏面で確認) (電気などが止まった想定をし、実践しておくことも効果的)

防災ノート

家族で、相談して防災ノートを記入しましょう。
(準備を整えて、災害発生時に落ち着いて行動をする)



災害発生時の避難場所

災害発生時の状況	避難場所
在宅中	
仕事中・授業中など	

家族との連絡方法（安否確認方法）

電話番号（伝言する遠方の親戚や知人など）

電話番号（災害用伝言ダイヤル171番）

伝言録音：171→1→(

※自宅など)

伝言再生：171→2→(

上記と同じ

非常時の準備・点検

最低限必要な物です。家族で確認しましょう。

- 懐中電灯
- 電池
- 携帯ラジオ
- 現金
- 預金通帳、印鑑
- 健康保険証
- 免許証など身分を証明できるもの
- 医薬品（常備薬を含む）
- 水（1人1日3㍑×3日分）

- 非常食（3日分）
- 衣類
- ビニール袋
- タオル
- マッチ又はライター
- お薬手帳
- メガネ、コンタクトレンズ
- 補聴器
- 携帯電話（充電器・予備電池を含む）



※各家庭で必要となる「最低3日間、推奨1週間」分の水、非常食を用意しましょう。

（赤ちゃん、高齢者、アレルギー、慢性疾患、ペット等も考慮して用意）

※食中毒や感染症を予防するため、避難所で配られた食べ物はできるだけ早く食べ、残った場合は廃棄しましょう。

※狭い場所で避難生活を続けた場合、エコノミー症候群（狭い空間で同じ姿勢のまま過ごしていると血液の循環が悪くなり、足などにできた血栓が肺、脳、心臓などの細かい血管を詰まらせることで起きる症状。死亡することもある。）が起こりやすくなります。予防として、水分を十分に摂り、適度に体を動かすようにしましょう。

お問い合わせ

〒920-8580 金沢市鞍月1-1 石川県危機対策課

TEL:076-225-1482 FAX:076-225-1484 Eメール:e170700@pref.ishikawa.lg.jp



<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kurashi/anzen/bosai/index.html>

平成29年5月 作成